

# 紙ヒコーキ大会審判マニュアル

## 【飛行距離】

- ① 競技者は練習終了後、自分の記録票をもらい、整列係の指示に従い並んで座る。
- ② **8cm 担当**はスタートラインに並ぶときに紙ヒコーキの横幅が8cm 以上であることを確認する。8 cm未満の場合は折り直しを指示する。
- ③ **スタートライン担当**は間隔をとって競技者をスタートラインに並ばせる。  
投げ終わった競技者に、記録表をもって自分のヒコーキの横に立つように指示する。ラインの踏み越しは、ファール（記録ない）だが1 回のみやり直し可能。
- ④ **号令担当**は、競技者が投げやすいように合図する。
- ⑤ **計測担当**は飛行機のスタートラインから、飛行機の先端までを測定する
- ⑥ **計測担当**は、飛行距離を読み上げる。記録担当は、計測担当が読み上げた記録を復唱し、正確を期して記入する。記録票は、1 回目は競技者に返す。2 回目は、予選会本部へ提出するよう指示する。

## ～計測器利用～

- ⑤ **計測担当**は飛行機のスタートラインから一番遠い部分までを測定する。レーザー計測器を反射板に向けて計測する。
- ⑥ **反射板担当**は、反射板がないところや10m以上で測定が難しいところに反射板を立てて測定者に協力する。計測はラインテープの内側を基点とする。
- ⑦ **計測担当**は、レーザー計測器のデータを読み取り、読み上げる。記録担当は、計測担当が読み上げた記録を復唱し、正確を期して記入する。  
記録票は、1 回目は競技者に返す。2 回目は、本部へ提出するよう指示する。

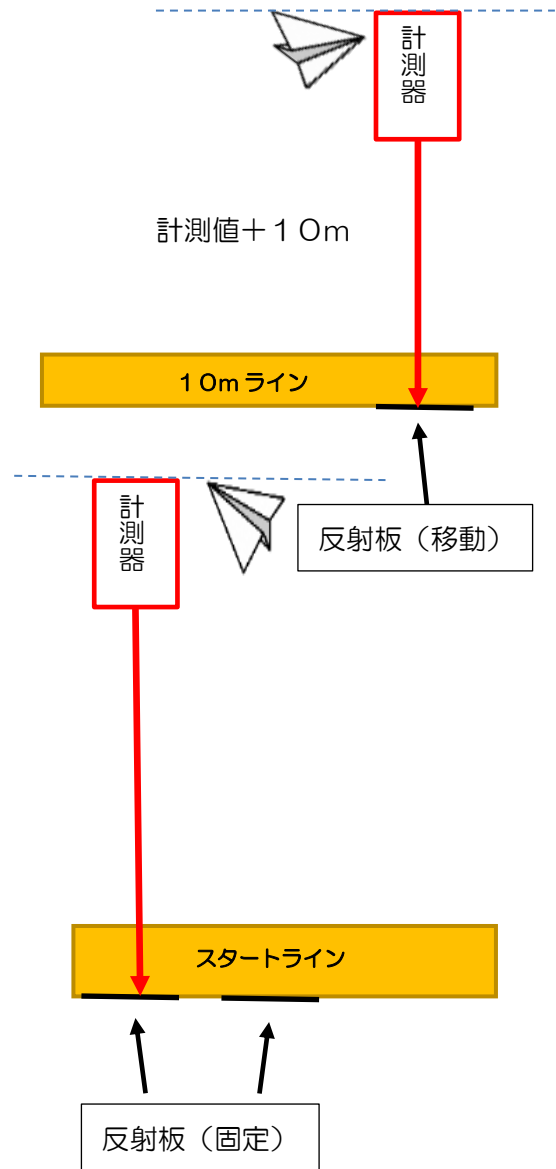
## 【飛行時間】

- ① 競技者から記録票を受け取った記録担当1 名が記録、もう1 名がストップウォッチでの計測を行う。（2投連続）100 分の1 秒まで記入する。記録記入の正確を期すために計測担当、記録担当ともに記録を復唱する。
- ② 2回投げ終わったら記録票を競技者に返却し、本部へ提出するよう指示する。  
（測定しない審判は子どもたちの誘導を行う）

## ＜準備物＞

- ・10m メジャー ・ストップウォッチ
- ・バインダー ・黒ペン
- ・ホイッスル ・記録表

## ～計測器での測定図解～



- ・折り紙ヒコーキを投げた（手から離れた）瞬間から床に着地するまでの時間を計測。
- ・折り紙ヒコーキが人に接触した場合は、その後に床に着地した時点までの時間。ただし、競技者が申し出れば再トライすることができる。（時間が長い方を記録とする）
- ・壁・物に接触した場合は、その後に床に着地した時点までの時間とし、再トライは行わない。
- ・1 秒以上高所で引っかかる等の場合は必ず再トライ。